

2021年
海外トピックス
東南アジア

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

経 済

県内事業者とオンライン商談会を実施（シンガポール）

昨年2月、地元シンガポリアンに人気の日本食レストラングループ、TEPPEI PTE LTD と組んで静岡県産品を使ったメニューを提供する TEPPEI×SHIZUOKA フェアを開催した。ちょうどその頃、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念され始めていたが、フェア自体は好評で、1か月延長して3月まで実施された。

今年度もフェア開催に向けて準備をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で日本への渡航が制限されたため、昨年度は実施した産地への訪問ができなくなってしまった。そのため、今年度はウェブ会議システムによるオンライン商談会を12月に行った。

商談相手となる県内事業者の方々から事前に提案商品を送ってもらい、シェフがテイステイングをした上でオンライン商談に臨んだ。初めての試みで心配していたが、商談は速やかに進み、旬の食材や輸送についてなど具体的な話し合いが行われた。今年3月からレストランで静岡の食材を使ったメニューが提供されるのだが、昨年度の食材に加えて、今回の商談で採用された新しい県産品がシンガポリアンの舌を楽しませるだろう。

社会・時事

経済・社会活動の制限緩和へ（シンガポール）

シンガポールでは、昨年12月28日、新型コロナウイルス感染症対策として実施している経済・社会活動の制限を段階的に緩和する措置の第3期（フェーズ3）に移行した。これまで店内での飲食や集団での活動は、最大5人までと制限されていたが8人に拡大した。イベント会場や宗教行事の人数制限も緩和された。

ただし、発表の際、リー・シェンロン首相はフェーズ3への移行は制限の緩和と同時に感染リスクの拡大を意味することから、引き続き感染対策を徹底するよう呼び掛けた。また、リスクをコントロール可能な想定範囲内に収める重要性を強調した。その方策として、①感染者の追跡体制の構築、②PCR検査体制の拡充、③安全管理措置の順守が示された。

政府は感染者に接触した人を迅速かつ効果的に追跡するために接触者追跡アプリを普及させてきたが、利用率が向上しないとみるや、同じ機能を備えた「TTトークン」という小型端末を開発して、全ての国民及び長期滞在者に配布した。PCR検査は1日に5万件超を可能にする体制を整えた。さらに、感染防止策に違反した個人や事業者には罰金や営業停止などの厳しい措置が継続して行われるものとみられる。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

行政

オンライン訪日旅行セミナー・商談会に参加（マレーシア）

1月13日、19日にJNTOクアラルンプール事務所主催のオンライン訪日旅行セミナー・商談会に参加した。マレーシアのクアラルンプール、ペナン、ジョホールバルの各都市に拠点を置く現地旅行会社と訪日旅行商品について商談を行う貴重な場だ。例年参加しており、昨年も県内市町担当者と共に現地旅行会社と顔を突き合わせて本県をアピールした。

現在、マレーシアは新型コロナウイルスの感染が再拡大して全土を対象とする緊急事態宣言が発令されており、隣国シンガポールとの間でも限定的な往来があるだけだ。そのため、今年はオンラインで実施されることになり、静岡から参加する（公財）するが企画観光局と共に商談を行った。オンラインイベントのソフトウェアを使って、現地旅行会社が着席しているバーチャルテーブルを我々が訪問する仕組みだった。

オンラインでは、実際に面談する時とは異なった準備が必要だ。限られた時間の中で、動画やウェブサイトを自在に操作して、チャットで必要な文字情報を送りつつ、明快で分かり易い説明をしなければならない。現地旅行会社も意欲的で今後に向けて良い商談ができたが、これからの時代に合ったスキルを身に付けなければならないことを痛感した。

経済

利き酒キャンペーンを実施（シンガポール）

近年、世界的な日本食ブームを背景に日本酒の輸出が拡大している。日本の財務省の貿易統計によれば、シンガポールは東南アジアで最大の輸出相手国であり、2020年1月～11月の輸出総額は前年比18%増の9億500万円にのぼる。

シンガポールはアルコール度数に比例して酒税が高くなるため、日本酒は身近なお酒ではないが、国内市場の成熟とともに消費者の嗜好も多様化し、今では全国の地酒を楽しむことができる。新型コロナウイルスの影響で旅行ができないため、ちょっと高級な食べ物などへの関心が集まっている。その土地や造り方によって味や香りが全く異なる各地の地酒を、旅するような気分で楽しんでもらうため、北海道や石川県と協働で「利き酒コラボプロジェクト in シンガポール」を1月18日から2月17日にかけて実施している。各地の地酒を利き酒セットにして、シンガポールの飲食店9店舗で提供してもらう試みだ。グラスに注がれた地酒を飲み比べてみると、それぞれに特徴があることがよくわかる。

静岡の地酒の良さを多くのシンガポリアンに知ってもらい、飲食店の定番メニューとして採用されることを目指していく。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

Facebook ライブでお国自慢（シンガポール）

1月中旬から1か月間、シンガポールに駐在員事務所がある北海道や石川県と共に各地の酒蔵と連携して、国内10店舗の飲食店で3道県の日本酒を味わい飲み比べすることができるプロジェクトを展開した。このプロジェクトから派生して、本県と北海道、石川県の各事務所の現地スタッフや関係者が、Facebookのライブ配信によりシンガポール人の目線で日本の地方や地酒を紹介することになった。

弊所からは、英語教師として浜松市水窪町で過ごした経験があるナタリーさんが参加してくれた。冒頭から各出演者はエンジン全開で地元の地酒やお国自慢を披露してくれた。シンガポールでは純米吟醸のようなフルーティでやや甘みのある日本酒が人気で、ナタリーさんは吟醸王国として評価の高い本県の地酒を懸命にアピールし、また、静岡が誇る富士山、温泉、お茶などの情報も紹介くださった。

ナタリーさんは2年間過ごした水窪の良さをもっと伝えたかったと言うが、北海道や石川県の出演者がパワフルにアピールをする中、十分健闘してくれた。30分間のライブ配信で常時50名以上の視聴者があった。楽しそうにお国自慢をする姿が視聴者にも伝わったようだ。

社会・時事

セーフティメジャー下での春節（シンガポール）

今年、シンガポールの春節（旧正月）は例年よりも静かであった。昨年12月末に社会制限措置がフェーズ3へと移行して規制が緩和されたが、海外で感染が再拡大していたこともあり、政府はセーフティメジャー（安全基準）の遵守を求め、違反者には厳しい罰則が課されていたからだ。一般的に春節では家族・親戚が一同に集まって食事をするが、今年は1世帯が1日に受け入れることができる人数は最大8人までに制限された。仮に4人家族が2世帯集まったら上限に達してしまい、それ以外の家族は翌日に回るしかない。事務所スタッフも親兄弟や親戚家族に会うスケジュールの調整に四苦八苦していた。

こうした厳しい規制もあって、2月下旬現在、新型コロナウイルスの市中感染が1日当たりゼロか数名程度に抑えられている。一方で、長い規制生活のために鬱憤が溜まっているのか、現在の厳しい規制の下でも繁華街に繰り出す若者の姿が見受けられる。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

国内のワクチン接種状況（シンガポール）

シンガポール国内で新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいる。政府は昨年12月30日から医療従事者を対象にワクチンの優先接種を始めており、2月下旬から70歳以上、3月初めからは60歳以上の高齢者や重要産業の従事者にも接種を進めてきた。3月29日時点でワクチンを1回以上接種した人は全人口の17%、約95万人にのぼり、60歳以上は55%を超えている。

実際、仕事先でも接種を済ませた方にお会いする機会が増えてきた。大概、接種した後の体調について話題になるが、状況は人によって全く異なるようだ。全く何も変化が無かったという人もいれば、1回目の接種で免疫ができたためか、2回目の後は倦怠感や頭痛などを感じる人もいるそうだ。もちろん、政府は接種前に適性を判断するスクリーニングを行って、重篤な副反応が出る可能性のある人は接種を控えるように呼びかけている。

政治

国軍によるデモ弾圧が激化、混乱が拡大（ミャンマー）

2月1日にミャンマー国軍によるクーデターが発生してから2か月以上が経過した。しかし、国内の状況は安定せず、国軍による抗議デモ参加者への弾圧は激化し、混乱が拡大している。

これまで、公務員や医療関係者、銀行員が業務を放棄して軍政に抗議する市民不服従運動（CDM）を展開し、路上での抗議デモや集会を行ってきた。これに対して、国軍は3月以降、実弾発砲などを含む武力行使を急速に強め、犠牲者が増加している。ミャンマーの市民団体によれば、国軍や警察の武力行使による死者はこの2か月で500人を超え、1日当たりの死者数も急増している。

国際的には、米国やEUが国軍関係者や関連企業に制裁を課し、日本政府は新たな政府開発援助（ODA）を停止するなど、非難を強めている。しかし、ミャンマー国軍は致死力を持つ武器を使った弾圧を依然として続けており、デモ弾圧のために軍事力を行使することを躊躇する気配はみせていない。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

ワクチン接種が進展（シンガポール）

シンガポールで新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいる。政府は昨年末から接種を開始し、2021 年上半期までに外国人を含む 16 歳以上の住民全員が受けられるように計画している。

3 月末、私も保健省のウェブサイトで事前登録を行った。4 月上旬には登録した携帯電話に申込 URL が通知され、日時と会場を選択して予約を完了した。当日、会場のコミュニティセンターに出向いて、受付を済ませると、間もなくパーテーションで仕切られた個室に呼び込まれた。問診を行い、副反応の説明を受けた後、あっという間に接種は完了した。その後、30 分間ほど待機し、最後の問診を受けて会場を後にした。幸いにも副反応はほぼ無く、3 週間後に 2 回目の接種を行う予定だ。

保健省によると 4 月中旬時点でワクチンを 1 回以上接種した人は 136 万人、そのうち 2 回目まで接種を完了している人は 84 万 9 千人以上に上る。

政治

ヘン副首相が次期首相候補の座を辞退（シンガポール）

シンガポールのヘン・スイキャット副首相兼財務相（59）は、4 月 8 日、実質的に次期首相を意味する与党・人民行動党の要職から退くことを明らかにした。1965 年の独立以来、一貫して同党が政権を担っており、ヘン氏は、リー・シェンロン現首相の後継者として次世代（第 4 世代）党員のリーダー職に就いていた。ヘン氏は、リー首相へ宛てた書簡で、「新型コロナウイルスの流行による危機は長く続く。危機が終わるころには、私は 60 代半ばになっている」と述べ、より若い指導者が首相に就くべきだとの考えを示した。

次期首相候補が一転して辞退したことについて、メディアは驚きをもって伝えた。ヘン氏はコロナ禍の影響がまだ 5～6 年続くとみており、危機が収束したあと新たな国づくりを担うために、次の若い世代に託すべきとの結論に至ったようだ。当面、現職のリー首相がコロナ禍の対応にあたるとみられるが、今後、更に若い世代から新たな次期首相候補が選ばれることになる。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

人気就職先ランキングに変化（シンガポール）

シンガポールには、欧米、中国、日本などから数多くの外資企業が進出している。大学生の就職先として、これまでは、外資でも国際的な大企業に人気が集まっていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大は、人気就職先についても変化を及ぼしているようだ。

ある調査会社がアンケートを行って魅力的な企業 100 社を発表した。近年は、ビジネス、IT、工業・自然科学の分野全てで Google が首位を独占していた。しかし、今年は工業・自然科学の分野で政府の研究機関であるシンガポール科学技術研究庁（A*STAR）が首位になった。また、最新の傾向として航空関連企業の後退がみられた。ビジネス分野ではシンガポール航空が前年 3 位から 6 位に、チャンギ空港運営グループは 4 位から 13 位に順位を下げた。工業・自然科学分野でも航空機エンジンのロールスロイスや航空機大手のボーイングなどが軒並み順位を落とした。

一方でビジネスや IT の分野で躍進したのが、香港発大手 EC サイトのショッピー（Shopee）や製薬大手のファイザーなどだ。ちなみに日系企業で 100 社以内にランク入りしたのは、ユニクロ、ソニー、武田薬品工業の 3 社だけだった。

社会・時事

日本人サッカー代表監督に注目（東南アジア）

東南アジアで最も人気があるスポーツといえばサッカーだ。各国にプロリーグがあり、インドネシアリーグでは三島市出身の松永祥兵氏（ふじのくに観光公使）が長年プレーをして人気を集めた。

当然、各国代表チームの選手や監督は高い注目を集めている。現在、2022 年にカタールで開催される FIFA ワールドカップに向けてアジア二次予選が行われており、2 人の日本人監督が東南アジアの国の代表チームを指揮している。

前回のロシアワールドカップで日本をベスト 16 に導いた西野朗氏は、2019 年 7 月にタイ代表監督に就任してチームを率いている。シンガポールでは、新潟や甲府で監督経験がある吉田達磨氏が 2019 年 6 月から代表監督に就任して、二次予選でもグループ 3 位と健闘している。カンボジアでは、本田圭佑選手（ネフチ・バクー所属）が GM として代表チームに携わっている。

責任ある立場であるため様々なプレッシャーがあるだろうが、日本人の代表監督として国際的に活躍されることを期待している。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

島田市で卓球代表チームが事前合宿（シンガポール）

6月27日、シンガポール卓球オリンピック代表チームが中部国際空港に到着し、事前合宿を行うため島田市に移動した。その様子はシンガポールでも大きく報道されている。

島田市はこの日のために4年以上を費やして準備を進めてきた。コロナ禍での代表チームの受入れということで、徹底した感染症対策を行っている。同国卓球協会に対し、コロナ対策を中心とした日本政府の対応について随時情報を提供し、コロナ禍で難航していた練習相手の確保についても相談に乗ってきた。そうした対応への信頼があって、今回の合宿が実現した。

卓球は同国にとってメダル獲得が期待される種目である。女子は団体競技とシングルスに出場し、チームの中心であるフォン・ティエンウェイ選手は北京及びロンドン五輪で銀メダルを1つ、銅メダルを2つ獲得している。男子シングルスでは、シンガポール生まれで初めての代表選手として注目を集めるクラレンス・チュウ・ジユ選手が出場する。充実した合宿を行って、本大会で活躍する姿を期待している。

社会・時事

Facebook で静岡サイクリングキャンペーン（シンガポール）

6月から事務所の公式Facebookでサイクリングをテーマとした投票キャンペーンを行っている。東京2020オリンピック・パラリンピックの自転車競技が静岡県内で開催されることから、県内各地のサイクリングコースを地元グルメや風景を交えて紹介している。行ってみたいコースに投票をすると、応募者の中から自転車競技のオリンピックグッズが当たるキャンペーンだ。

これまで、シンガポールでサイクリングに関心が高いのは、欧米の駐在員など、ごく一部に限られていた。国内ではバスや地下鉄の交通網が発達していて、通勤通学で自転車を利用する人はほとんど見られず、走行に適した道路も少なかった。しかし、現在、新型コロナウイルスの影響で、サイクリングへの関心がグッと高まっている。週末のアクティビティーとして、家族や若年層を中心にサイクリングを楽しむようになってきた。カラフルなスポーツウェアを身にまとい、イーストコーストを颯爽と走る姿を見かけるようになった。

レンタルショップの増加や電動自転車などの種類の豊富さもファンを広げる要因になっている。政府も国民の健康増進のため、2030年にはサイクリングロード網を現在の3倍となる1,320kmに拡大する計画を発表している。ひとりの自転車愛好家として、シンガポールにサイクリング文化が浸透していくことは非常に楽しみだ。



事務所公式Facebook

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

デルタ株による感染が急拡大（インドネシア）

インドで最初に確認された新型コロナウイルスの変異株「デルタ株」の感染が東南アジア諸国で猛威をふるっている。デルタ株は感染力が強く、ワクチンを接種した人でも感染を拡大させてしまう可能性が比較的高いことが特徴だ。インドネシアの状況は特に深刻で、感染者の急増によって、病床が逼迫して入院が拒否され、自宅療養中に死亡するケースが増加している。一部では、医療機関が患者の受入が困難なためにPCR検査に消極的で、市中感染を更に拡大させてしまう悪循環に陥っている。保健省の調査では7月27日時点で変異株による感染の中でデルタ株の割合が最も高く、米国疾病予防センターの内部資料で指摘があるように水痘と同程度の「強い感染力」を示している。

感染の急拡大を受けて在留日本人の帰国も相次いでいる。日本政府の支援の下、一時帰国を希望する在留日本人のために特別便の運航が始まっている。

社会・時事

本県と富士山をテーマに学生と交流（シンガポール）

シンガポールでは、他の東南アジア諸国と同様に、日本や日本文化に憧れや親近感を抱いてくれる人が多い。シンガポール国内には、ポリテクニクと呼ばれる高等技術専門学校があり、最近では、その中のひとつテマセク・ポリテクニク(TP)と先端農業分野でのプラットフォームの構築に取り組んだり、多岐にわたる分野で交流を進めている。今回はTPの学生クラブ「ジャパン・カルチャー・クラブ(JCG)」から依頼があり、本県と富士山をテーマに講演をすることになった。コロナ禍のため、ウェビナーで実施することになったが、学生の方々は興味を持って熱心に耳を傾けてくれた。本県に関する質問も多数出て、和やかな雰囲気の中で充実した時間を共にすることができた。また、JCGの皆さんが日頃行っている活動を動画を通じて触れる機会があり、日本のアニメやおたく文化について若い世代の関心が非常に高いことを知った。いわゆる「ヲタ芸」と呼ばれるアイドルの応援をシンガポールの学生たちが日本のそれにも劣らないような熱いパフォーマンスをしていることに驚かされた。日々の業務では、知り合うことのできないような若い世代の人たちと交流できることは、シンガポールの今を知る上で非常に貴重な機会だと感じた。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

「プーケットサンドボックス」(外国人観光客の受入緩和施策)(タイ)

タイでは、デルタ株による感染の拡大のために社会的な活動規制が再度強化されていたが、9月から店内飲食を可能にするなど規制の強化と緩和が繰り返されており、周辺 ASEAN 諸国と同様に感染拡大の防止と経済活動を両立させるために苦労を重ねている。

こうした中、7月から同国最大のリゾート地プーケットでワクチン接種を完了した外国人観光客であれば、隔離期間無しで受け入れる「プーケットサンドボックス」と呼ばれる外国人観光客の受入緩和施策が開始されている。

「プーケットサンドボックス」の開始2か月の利用者は2万6400人、現地消費額がおよそ54億円に上っている。併せて政府はプーケット住民のワクチン接種を重点的に進め、9月上旬には2回の接種を済ませた人が8割を超えた。

現状では、デルタ株による感染再拡大も影響して外国人観光客が大挙して押し寄せる状況ではないが、着実に受入れを進めている。受入れの状況は、同国政府観光庁のウェブサイトですぐに毎日更新されている。(https://www.tatnews.org/)

※通常、サンドボックスとは「砂場」を意味するが、IT用語で外部のアクセスが厳しく制限されたコンピューター上の仮想環境を指すことから名付けられた。

社会・時事

「ワクチントラベルレーン」を開始(シンガポール)

シンガポール政府は9月8日からドイツとブルネイを対象に、新たな枠組み「ワクチントラベルレーン(VTL)」を設け、ワクチン接種を完了した人を対象に、隔離期間無しの入国を認めると発表した。国内における新型コロナワクチンの接種完了者が8割を超え、海外との人の往来を段階的に再開して経済と国際航空ハブとしての地位を回復するのが狙いだ。

ファイザーまたはモデルナ製、あるいは世界保健機関の緊急使用リストのワクチン接種を完了して2週間以上が経過した人を対象にしており、外国人には新たに設けたワクチントラベルパスと呼ばれる入国申請パスの取得を義務付けている。隔離期間無しで入国を認める代わりに、出発前48時間以内のPCR検査、シンガポール滞在中の数日おきの検査など、厳しい検査体制を設けている。

一方で、今回の措置ではシンガポール居住者の短期往来も対象にしている。ある旅行会社ではドイツのロマンチック街道などを巡る9泊12日の周遊ツアー等を販売しており、双方の往来がどの程度増えていくのか注目している。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

ドローン遠隔操作体験イベント（シンガポール）

9月9日、コロナ禍の経験を糧にした今後のインバウンド観光の需要喚起に向けての取組として、富士山の麓のドローンを遠隔操作する体験や静岡茶のブレンド体験、利き酒体験などができるバーチャルイベント「あさぎりドローンプロジェクト (Mt. Fuji Drone Challenge in Asagiri)」を実施した。シンガポールの会場から富士山が一望できる「あさぎりフードパーク」（富士宮市）をオンラインでつなぎ、シンガポールの旅行会社やメディア、一般の方も参加して、ドローンをシンガポールから操作して飛行させる体験を楽しんだ。

今回のイベントは、コロナ禍で海外への渡航が難しい中、徐々にではあるが、今後、必ず行われる制限の緩和を見据えて、訪日旅行需要の喚起や新たな旅行形態の提案を目的として実施した。現地の反応も好評で、旅行メディアやラジオなどにも取り上げられた。

今後は、渡航制限が緩和されて再開される旅行展示会などで、今回のようなバーチャルイベントを実施して、本県だけでなく訪日旅行の再開を大々的にアピールするなど、活用の可能性を広げていきたい。

社会・時事

渡航制限緩和の兆し（オーストラリア）

オーストラリア連邦政府は、新型コロナウイルス感染拡大を水際で防止するため、2020年3月から1年半にわたり厳しい渡航制限をとってきた。シンガポールからも多くの学生が同国に留学をしていたが、コロナが発生した際、緊急措置として一時帰国した後、再入国が認められず同国で学業を継続することが困難になってしまった学生も少なくないと聞く。

しかし、ようやく最近になって、厳しい渡航制限が緩和される兆しが見え始めている。9月上旬、連邦政府は緊急閣僚会議でワクチンパスポートの10月の運用について協議を行った。スコット・モリソン首相はワクチンの2回接種完了者を対象に、接種率が成人対象人口の80%を超えた時点で海外への渡航を解禁すると発言した。9月中旬時点で、国内の接種率は42.3%と発表されたが、11月下旬には80%を超えることを目標にしている。

貿易観光省のデハン大臣は、渡航再開に向けて日本を含む主要な渡航先相手国とワクチンパスポートについて協議を行っていることを明かした。海外からの入国については、アストラゼネカ、ファイザー、モデルナ、ジョンソン・エンド・ジョンソン製のワクチンが対象になる見込みだ。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

ウェブ動画によるプロモーション（シンガポール）

YouTube は東南アジア諸国でも最も人気があるウェブ動画サイトのひとつで、各国で活躍する人気ユーチューバーには現地で暮らす日本人もいる。

シンガポールで人気のジブおじさん(Ghib Ojisan)もそのひとり。先日、ジブおじさんに静岡フェアを取材してもらう機会に恵まれた。当地で30年以上にわたって営業をしている「フィッシュマーケットさくらや」での静岡フェアでは、本県の産品を使ったレストランメニューや加工品の販売を行った。ジブおじさんは、生しらすやさくらえびの軍艦巻、静岡抹茶をまぶした天ぷらなどを味わう様子を撮影していた。

後日、掲載された動画(※)を見ると、シンガポール人の義母と中国語だけでコミュニケーションを試みつつ初体験の料理をする中、静岡フェアの情報を織り交ぜて紹介する内容で、視聴者を飽きさせない構成になっていた。静岡の食材を使ったおいしいような料理が、存在感溢れる義母との軽妙なやりとりで圧倒される感があったが、視聴回数は公開3日目で4万回を超えた。



(※) ジブおじさんの動画

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、動画によるプロモーションの影響力はますます高まっている。国際的な渡航の制限が続くなか、東南アジア各国のインフルエンサーと連携して発信をすることで、本県をより身近に感じてもらいたい。

社会・時事

東南アジア各国で旅行再開の兆し

シンガポールやタイをはじめとして、コロナ前には多くの外国人観光客を受け入れてきた国々で旅行再開の動きがみられる。

シンガポールではワクチントラベルレーン(VTL)を設置して、英国や米国、オーストラリア、韓国など13か国との間で、隔離期間なしの短期訪問受入れを双方で開始しており、今月下旬には欧州2か国及びインド、インドネシア、マレーシアなどとも往来の再開を予定している。いずれもワクチン接種完了者を対象にしており、各国でワクチン接種率が上昇していることが背景になっている。10月末時点でシンガポールでは人口の約80%、カンボジア、マレーシアでも75%以上がワクチン接種を完了しているといわれる。

タイでも今月1日からワクチン接種完了者の隔離を免除している。日本からの空路での入国も対象になっている。インドネシアでは、隔離3日間の条件付きながら、観光地バリ島への国際線受入れを再開。マレーシアも今月15日からリゾート地ランカウイ島で、外国人観光客の受入れを再開した。ベトナムでも中部ダナンなど5省市で、隔離なしの入国を認める方針を打ち出している。

ワクチン接種率の上昇に伴って、外国人観光客の争奪レースに熱い視線が注がれている。

東南アジア駐在員報告

駐在員：福田 渉

社会・時事

渡航制限の緩和と新たな変異株の確認（東南アジア）

11月初旬、東南アジア各国では海外からの渡航制限の緩和が相次いで発表され、新型コロナウイルスのワクチン接種完了者を対象に隔離措置なく入国を認める措置が広がっていた。

タイでは、日本を含む63か国・地域を対象に受入開始を発表し、インドネシアでもバリ島での国際線受入れ再開に続いて、ワクチン接種完了者の施設隔離期間を5日から3日に短縮した。シンガポールでは、ワクチン接種完了者を対象に相互に隔離なしの渡航を可能にするワクチントラベルレーン（VTL）の運用を11月下旬までに韓国、インド、インドネシア、マレーシアなどを含む18か国まで拡大していた。

しかし、南アフリカで新たな変異株「オミクロン」が発表されて、12月に入ると東南アジア諸国でも渡航者等からオミクロン株の感染者が相次いで確認された。入国制限が再び厳格化され、渡航緩和で高まっていた期待に冷や水を浴びせた。一部の国では観光客の受入れ禁止や渡航緩和の一時停止を発表した。シンガポールのVTLは、入国後の即時抗原検査（ART）を毎日課すなど、検査を厳格化して対応している。

オミクロン株の感染力や既存ワクチンの有効性などについて検証が続いているが、ようやく端緒についたVTLなどの渡航の枠組みを維持して、制限緩和の動きを後戻りさせることなく、新しい変異株にも対応した渡航が再開されることを願っている。

社会・時事

ヘルス・プロトコールの確立を推進（シンガポール）

新型コロナウイルスの感染拡大で各国政府が最も恐れていることのひとつは、医療機関が逼迫して国民が適切な治療を受けられなくなることである。

シンガポールでも今年5月頃から経路不明の感染者が増加し、インドネシア等の周辺諸国でデルタ株によるものと思われる爆発的な感染拡大が報告されると、医療崩壊を起こさないための医療提供体制（ヘルス・プロトコール）の確立を推進してきた。

8月末から全世帯を対象に即時抗原検査（ART）キットの郵送を開始した。このキットを使えば、感染者と接触した可能性がある時や体調に異常を感じた時など、自分で鼻の粘膜をぬぐって溶液に浸し、それを検査パレットに流し込むと15分程度で検査をすることができる。陽性でも無症状であれば、そのまま陰性になるまで自宅隔離となり経過観察をする。症状が現れたら指定された病院で診察を受けて医師の指示に従う仕組みだ。

9月以降、政府はARTによる検査を徹底して進めたため、10月から11月は、1日あたり1,000人から3,500人の新規感染者が確認された。ただ、そのうち約98%は軽症もしくは無症状者で、そうした人々は自宅で療養していたと思われる。

政府によるヘルス・プロトコールが浸透した結果、現在までのところ医療機関が逼迫してパニックになるような状況は発生していない。